

2	学年経営	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
	中学校 1 年	①基本的な学習習慣の確立と学力向上を図る ②身だしなみや服装を整え、礼儀正しい態度の育成 ③健康・安全に注意し、充実した学校生活を送る ④思いやりと命を大切にする心を育む	①予習・復習を継続させ、しっかりと計画を立てて定期考査に臨ませる。 ②登下校時の四恩塔一礼や気持ちの良い挨拶を心掛けさせる。 ③時間厳守した行動と規則正しい生活習慣に取り組ませる。 ④LHRや学年集会などで、生徒指導の話をする。	①B ②B ③B ④A	①週学習計画表の活用やスコラに記入をさせ、計画的に実行させた。 ②四恩塔一礼は良くできていたが、挨拶の声が全体的に小さかった。 ③朝礼や終礼などの時間を使い、チャイム前着席やコロナ感染予防対策などの指導を多く行った。 ④スコラの記入内容や二者面談を出来るだけ取り入れ、情報収集に努め、早期に対応した。
	中学校 2 年	①基本的な生活習慣を確立し、学習時間を確保する ②計画的かつ主体的に学ぶ姿勢を身につける ③互いに支えあい、学びあう人間関係を構築する ④将来の進路について、適性や興味関心をもとに考える	①スコラや学習計画表を利用して、適宜担任からもアドバイスしながら生徒自身に日々の生活について振り返り、改善できるような機会をもつ。 ②小テストや計算大会・英単語大会を行い、学習計画にメリハリをつけ、生徒自身がこまめに自分の問題点を意識できるような機会をつくる。 ③道徳の時間での意見交換や、LHRでのコンセンサスゲームの実施など、他者の意見を聞き、互いを尊重しあう態度を育てる。 ④道徳の時間や学年集会等を利用して、自分の適性を考え、将来の職業について考えるよう指導する。	①B ②B ③B ④B	①毎週スコラチェックを行い、気になる生徒には適宜声かけを行ったり、保護者への連絡をした。 ②数学を中心に、英語、国語も行い、日々の学習の積み重ねへの意識付けを行った。 ③道徳の教科書だけでなく、クラスの問題やコロナ禍での生活についても題材として取り上げた。 ④学年集会を利用して取り組むようにつとめた。
	中学校 3 年	①高校課程の基礎内容の定着と家庭学習の継続を図る ②中学最上級生として、模範になるような服装と挨拶の徹底を図る ③健康管理に気を付け、充実した学校生活を送る ④学習面・生活面の両面において主体性、積極性を養う	①毎時間の授業に集中し、課題提出期限を守らせる。 ②毎日の登下校時の四恩塔一礼、ホームルームの充実。 ③時間厳守した行動と規則正しい生活習慣に取り組ませる。 ④週間学習計画表を作成し、スケジュール管理を行う。 ⑤朝テストとスタディサブリを活用した補習を行う。 ⑥探究活動や班活動を通じて、主体性・積極性を養う。 ⑦中学発表会でプレゼンテーションを行い表現力を磨く。	①B ②B ③B ④B ⑤B ⑥A ⑦A	①授業に集中できなかったり、課題提出期限に遅れる者が多少見られた。 ②四恩塔一礼はだいたい良くできていた。ホームルームも落ち着いて取り組めていた。 ③④計画表を作成しても、なかなか活用できない生徒のいた。生徒本人が作成した計画表をもとに、声かけ・面談を行った。 ⑤朝テスト実施後は遅刻者が減った。スタディサブリを活用した補習を実施しているが、まだ十分な成果は出ていない。 ⑥探究活動をととして社会への興味関心を高め、班活動をととして協調性と責任感を養った。
	高校 1 年	①健康・安全面に最大限の配慮をした上で、充実した高校生活を送る ②文理選択に向けて、職業や学問に対する自己の適性を意識させる ③新大学入試制度についての情報共有をする ④大学入試を意識して学力向上を図る	①高校生としての基本的な生活習慣と学習習慣の確立のため、2者・3者面談の時間を可能な限り確保する。 ②社会人として活躍している本校卒業生10名から、オンラインで講演をいただき、職業に対する理解を深める。 ③夏休み、LHR、学年集会等を利用し、各大学の特徴を調べさせ、必要な情報を提供する。 ④対外模試を活用し、入試を意識した実力養成に着手する。	①A ②A ③B ④B	①少なくとも3回の2者面談と1回の3者面談を実施し、生徒や家庭とのコミュニケーションをとることができた。 ②職業に対する研究意識が高まった生徒が増加した。 ③共通の基本的事項についての情報共有は進んだが、調べた情報の量には個人差が出た。 ④秋の対外模試成績が春よりも向上した。今後さらにもうひと伸び期待したい。
	高校 2 年	①受験に向けた学力の充実 ②早い時期に受験を意識させる ③新入試制度に向けての情報共有をする ④学校の核として意識させ、行事や部活動を牽引させる	①模試を活用する。事前・事後学習を徹底し既習内容の復習と弱点を補う。 ②入試問題を早期に取り扱うことにより、必要な学力レベルを設定させる。 ③共通テスト、各大学の入試について模試の問題等から変更を確認。推薦入試の概要を共有する。 ④行事等を自分たちで企画運営させ、達成感とリーダーシップを	①B ②A ③A ④A	①各教科、事前準備を行い成績の向上につながった。事後学習については個人差ができた。 ②12月にレベル別ゼミを行い、入試問題を解くことにより1年後までに必要な学力を知る機会を作った。 ③進路講演会や面談を利用し適宜情報を流した。 ④生徒会等を中心として、学年行事等を実施することができた。
	高校 3 年	①受験に向けた学力の充実 ②志望大学・学部・学科の合格可能性を意識させる ③最終志望校の決定 ④新入試制度に向けての情報共有をする ⑤進路指導部との連携	①常に受験を意識した授業展開。放課後等の指導。 ②HRで模擬試験の個人データを読ませ、足りないところを意識させる。 ③志望学部と模試の判定の推移から最終志望校を決定させる。 ④共通テスト、各大学の入試について模試の問題等から変更を確認。 ⑤入試前、小論指導・面接指導を全先生方をお願いする。	①B ②B ③A ④A ⑤A	①質問しない者への対応が難しく今後の課題が見つかった ②志望校と学力の差を感じ、やる気をなくす生徒もあり、行動に個人差が見られた。 ③面談の繰り返しにより、最終志望校を絞った。 ④出願内容、出願書類等が本年度から変更になっているものも多くあり、多くの人数で確認を行った。 ⑤先生方に多くの負担をおかけしたが、合格した際、学校全体で喜ぶ光景があった。
				4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり C：やや改善なし D：全く改善なし